

利神城跡周辺整備事業

調査と施工者 鳥越 茂・安田邦男・藤原正彦
藤木 透・金谷貴昭

1. はじめに

利神城は平成 27 年度から調査や整備に乗り出しており、本年度は雑木整備が行われる。城跡の樹木整備例は少なく、方法が確立されているわけではないので、緑のヘリテージマネーの意見も聞きながら計画を進めるため、佐用町教育委員会より依頼された関係者が集まり検討会が開かれた。佐用町教育委員会、佐用郡森林組合、兵庫県みどりのヘリテージマネージャー会の関係者が集まり、現地検討会を行った。その結果をもとに(社)兵庫県みどりのヘリテージマネージャー会但馬が作業法等について提案し、佐用郡森林組合が作業を行ったので、調査と結果について報告する。

2. 調査方法

- 1) 履行期間：平成 27 年 10 月 8 日～平成 28 年 3 月 31 日
- 2) 履行場所：佐用町平福地内外
- 3) 実施方法：関係者 7 名が現地に集まり城跡周辺を踏査し、みどりのヘリテージマネージャーが整備方法を提案する。これに基づき佐用郡森林組合が樹木整理を行う。

3. 調査結果

登山口から登ったので行程に従い説明する。

(写真 - 3) からす丸は平地で雑草が刈られ、周囲には良く生育したセンダンが 5～6 本あった。センダンは元から当地にあったとは考えられず、成長も早く城跡の樹木としては違和感があるので、伐採除去が適切と思われる。

(写真 - 4) 東の城壁に生えていたかなり太い樹木がすでに伐採されていたが、城石の間に入り込んでいた根が腐った時、周囲の石が落ちて石積が崩れることに少し不安を覚えた。過去に洲本城でも同じような整備が行われていたが、伐根が腐っても石組は守られていたので、壊れずにすむ可能性もある。ただ、石垣の基礎に近いところの伐採は地面の露出による表土の流亡により、土が痩せて石組が壊れる可能性があり、今後注意して観察する必要がある。

(写真 - 5、-6) 天守丸から北を望むと大木となったセンダンが帯状に成林しており、景観

上不自然さが伴い、伐採が必要である。天守丸の平地はササやジシバの草地となっているため、表土が守られていた。この状態を維持するため地域の人が草刈りを行っているとのことで、今後、地域の人々の高齢化と過疎化が進んだとき、同じ管理は行えないと思われ、その時を見越した管理方法も考えておく必要がある。

(写真 - 7) 天守丸から南西の大阪丸を見ており、画面右上に道の駅が見える。

(写真 - 8) 天守丸南東面から見たもので、写真中の赤い丸枠はセンダンの群生地であり、伐採の必要がある。

(写真 - 9) 石垣から出ている伐根を見ると、周囲の石垣は石のハラミ等の影響を受けておらず、石垣に食い込む根の状態は一律に処理できないことが分かる。

(写真 - 10) 天守丸南東面の石垣から少し離れて外側にシロダモが群生しており、伐採して城壁を見やすくする必要があるが、一度に根元から伐採すると法面崩壊につながるため、地上 150 cm で伐採して萌芽させると根が守られ、以後、幹の管理もしやすくなる。径の太い樹木を中心に本数を半分以下にして、下から上る人が木の隙間から石垣をちらちらと見える程度まで本数を減らす。

(写真 - 11) 天守丸周辺の草地は外来種であるダンロボロギクが多く、除去したいものである。

(写真 - 12) 西面の石垣の天端の石が樹木の根により押されて飛び出していた。根の城壁への食い込み方により石垣への影響が異なるので、画一的な伐採は難しいことが分かる。

(写真 - 13) 天守丸西面の石垣の基部付近の伐採状況で、石垣周辺の樹木伐採は基礎部への影響を考えると切りすぎかもしれない。

(写真 - 14) 天守丸から三の丸に向かう山道の周囲にある椿のかたまりで、花の咲く樹木として保護し残すほうが良いと思われた。

(写真 - 15) 三の丸は狭いが平地で雑木林となっている。本数が多いので間引く必要がある。

(写真 - 16) 三の丸先端部法面は樹木が少なく地面が露出している。地面保護を考えると間伐を控えたほうが良い。

南の三の丸への登山道から登った場合に見られる樹木について

(写真 - 17) かつて炭焼きの原木として伐採したと思われるコナラが萌芽更新している。5本立っているコナラの中の細い2本を残して伐採する。

(写真 - 18) ソヨゴが7本の株の内2本残して5本伐採されている。このような切り方をして地表面を守る必要がある。

(写真 - 19) 三の丸伐採地であるが、全伐にするより1/3ぐらい残す伐採法が良いと思われる。

(写真 - 20) 道の駅から見えている天守丸の西面である。平成16年の台風により崩壊したと思われるが、樹木による地表を支える力がなくなり斜面が崩れたと思われる。

(写真 - 21) 写真 - 20 と同じ場所。

(写真 - 22) ヤダケが見られるが、戦国時代の名残りであり、歴史を留めるものとして案内の説明に使うのも有効。

(写真 - 23) アベマキが高さ約 2m で伐採されているが、下から切るのではなく、このぐらいの高さで切ったほうが萌芽の可能性が高くなる。

(写真 - 24) 天守丸東面の石垣の高さは 2m であった。

(写真 - 25) 樹木の根により石垣が壊れている箇所であった。周りに 3 本の伐採根が見られすべて切ってしまうと根が腐り石垣が崩れてしまうことを示している。

(写真 - 26) 二の丸の遠景でかつては石垣が見えていたそうである。

(写真 - 27) 三の丸の遠景

(写真 - 28) 石垣基部の伐採で、伐根から再萌芽することを期待する。

(写真 - 29) 犬走が広い箇所は直接的な樹木の影響は少ないが、犬走が狭いと影響が大きいので伐採するときは注意が必要である。

以上の結果をもとに別表(付表-1 利神城の施工法)の作業法を提案した。

3. 作業結果

1) 樹木整理

写真 - 30 は作業前の三の丸から二の丸を見たもので、センダンが多いのが分かり、石垣はほとんど見えない。写真 - 31 はセンダンをすべて伐採した後で、石垣の角がはっきりしてきた。

2) 写真 - 32 は作業前の烏丸のセンダンで、狭い場所に 8m 前後のセンダンが 4~5 本あり、断面を見ると年輪幅が 2 cm も成長しており、その成長力には驚かされるし、放置すると後からの手間が大変かかる木であることが分かる。写真 - 33 は写処理後の状態である。

写真 - 34 は処理前、写真 - 35 は伐採により樹木を透かして城跡が見えるようになった。

3) 写真 - 36 は本丸の南側、城壁に接したシロダモが密生していた場所で、シロダモを整理することにより石垣の基礎部分が良く見えるようになった(写真-37)。ただ、犬走が細いので樹木の根による土壌緊迫力が弱くなると土が流れ石組みが崩れないか不安がある。

4) 写真 - 38 は三の丸の紅葉の周辺を整理した時のもので、樹高を 1.5~2m に切りそろえ、大きくなって伐採処理に手を取られないように処理した。

5) 写真 - 39 は 4 本株立ちしていたシロダモの太い 2 本を切って細い 2 本を残したものである。

6) 写真 - 40 は南面の傾斜の厳しいところで、中腹にコナラの大きな群落があり、ビューポイントを邪魔しているのではないかと思っていたが、ポイント②から見たところ全く邪魔していないことがわかったので、放置してよいと思われる。

7) 写真 - 41 は城跡の表土がはがれているところがあり、基礎から崩れる原因になるのではないかと心配したが、すぐ下が基岩になっており、崩壊の原因になるようなものではないと思われた。

4. ビューポイントについて (図 - 1)

①は下庵から少し南に下った地点から利神城を写したもので、城の北側を写しており、下庵からかなり距離があり、城全体の形は分かりづらいポイントである。

②は特別養護老人ホーム朝霧園の入り口から写したもので、①より見やすいが全体像は分かりにくい点で最適とは言えない。

③は道の駅平福から写したもので、電線が邪魔するのが残念である。

④は利神小学校付近から写したもので、この中では全体を捉えることができる一番のポイントであった。

5. 今後の課題

最大の課題は今後の管理方法である。出来るだけ手のかからないように、省力化と素人でも可能な方法として提案する。

1) 表土が崩れないように根茎は残す方法で伐採した。そして細い木を中心に残したので、今後5年ぐらいは手を加えなくてもよいと思う。5年目に込み具合を見て、大きくなっていれば2mぐらいで芯を止め、大きくならないようにし根系は残すようにする。

2) 放置すると樹高が高くなり、株立ちが増えるので本数を減らすようにする。遠くからでも石垣が見えるように樹木を高くしないことは景観上も大切である。

3) 今回伐採した樹木の内、萌芽しやすいものとしにくいものがある。それを5年間で見分けておき、そして次世代に無理なく残せるようにする。